

65

TRI HAWKS Quarterly Issue vol.65 / 2021

ホトリクス



今年に入って発売された『宮崎駿とジブリ美術館』（岩波書店）。宮崎駿監督が美術館をつくるにあたって、何を考え、どのように携わってきたのかを、監督が描いたイラストやメモ書きとともに紹介しています。美術館や展示が作られる過程の資料は、担当者しか目にしていない物も多く、私たち美術館スタッフにとっても美術館や過去の企画展示を別の角度から見直すきっかけとなりました。ジブリ美術館は、今年の10月1日に開館して20年を迎えました。手を入れたところ、変えていないところ、様々ではありますが、ひとつひとつ積み重ねて今があるのだと改めて感じたところです。

図書室の本棚も、最初に選ばれた20年選手の本もあれば、この間に新たに加わった本もあり、少しずつ変化しています。『宮崎駿とジブリ美術館』と合わせて、じっくりご覧いただければと思います。

季刊トライホークス 2021年 | 65号
 発行日……2021年11月28日 | 発行人……中島清文
 発行所……徳間記念アニメーション文化財団
 東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館
 編集……石光紀子 蝦名さえ子 | デザイン……川島弘世
 印刷……図書印刷株式会社 | 非売品

本棚より

トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。
 トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にさせていただいたら嬉しいです。

風と木の歌

山で道に迷ってしまった「ぼく」は、あたり一面真っ青な桔梗畑を見つけました。少し休もうと腰を下ろすと、目の前に白い子ぎつねが現れたのです。あとを追いかけると、「そめもの ききょう屋」と書かれた看板の前に子どもの店員がひとり、立っていました。子ぎつねが化けたにちがいない、と思いながらも店に入ると「おゆびをおそめいたしましょう」と、とんでもない提案をされます。むっとしたぼくに、子ぎつねはにっこり笑って、青く染まった自分の指でひし形の窓を作ってみせました。覗いて見るとそこには、しっぽをゆらりと立てた母ぎつねの姿があったのです……。

「ぼく」の視点で描かれたこの物語。話が進むに連れ、子ぎつねからは、人間に母親を奪われた悲しみや怒り、やるせなさが見え隠れしていきます。しかし、筆者はただ「復讐」という解決策を示すわけではありません。善悪をはっきりと区別するのではなく、そこにある感情とひたむきに向き合い、寄り添っていくのです。

確かに、善悪を分けたり区別をつけることは、物事の解決に必要なことかもしれません。しかしこの物語は、それだけでは見過ごされてしまう想いやどうにもならない感情があることに、気がつかせてくれました。本書には、この『きつねの窓』の他、8つの短編が収録されています。時に切なさや厳しさを垣間見せながらも、その全てに不思議と心地良い余韻が残るのは、筆者のそうした優しい眼差しが注がれているからかもしれません。



風と木の歌
 著者…安房直子
 偕成社文庫 880円



田中薫子

Kaoruko Tanaka

おとぎ話の世界へ

今回、本を紹介していただいたのは『アーヤと魔女』を翻訳された田中薫子さんです。たくさんの「夢中になって読んだ本」の中から選ばれた10冊は、昔話からファンタジー作品まで幅広いラインナップです。児童書というと子どもの本と思われがちですが、大人の方にも読んでいただきたい本ばかり。まずは一冊手に取ってもらえたらと思います。

* * * * *

ふしぎな話が大好きで、おとぎ話や民話、神話には、幼いころから興味がありました。きっかけはたぶん、宝物にしていた、英語のポップアップ絵本。シンデレラと白雪姫、親指姫の3冊がありました。現代のしかけ絵本のすばらしい技術にはおよびませんが、品がよく、楽しいしかけでいっぱいでした。ページを開くと立ち上がるお城の階段を指でそっとたどるのが、ひそかな楽しみでもありました。

本棚にはずっと、こよなく愛する数々の児童書といっしょに、文庫本の「グリム童話集」とペロアの童話集、「アンデルセン童話集」、「日本むかしばなし集」がならんでいます。アンデルセンの童話は、幼い私には少しこわいと感じられるものが多かったのですが、愛読したとまではいえませんが、グリム童話集は何度も読み返しました。あたりまえのように魔女や妖精、大男、生き返る死人や話をする動物が出てくる、ふしぎな王国（なんとなくですが、すべての物語が同じ別世界で起こっていると思っていた気がします）の物語に、魅せられたのだと思います。なんでもだいたい3つの事件が起きるパターンも、この世界のお決まり。教訓めいた話も、ときに残酷な描写もありますが、私は別世界の話という意識もあって、抵抗なく受けとめていました。ただ、なぜかしらと思うこと

は山ほどありました。たとえば、一番上の子がたいてい（する）賢くて、末っ子とその反対なのはなぜか、そして上の子が不幸な末路をたどり、下の子は幸せになりがちなのはどうか、など……悩みだしたらきりがありません（そういうことを研究するのも、おもしろそうですけど）。「えー、なんでそうなるの？」と頭の中で盛大にツッコミを入れながら読むのも、楽しみかたのひとつのように思います。

大学の図書館では、世界じゅうの民話を集めた全集を順に借りて読みました。やはり人の行き来があるところには、どこかしら似かよったお話がある、という印象でした。

日本の昔話は、文庫本では「きつちよむさん」のとんち話が好きでした。岩波の子どもの本シリーズの『ききみみずきん』と『おそばのくきはなぜあかい』は、物語に加えて初山滋氏の絵がすばらしく、本を開かなくても、はっきりと目に浮かぶくらい好きです。

一方、「説教がましい民話やおとぎ話は、もう古い。道徳教育は学校にまかせて、子どもたちには純粋に楽しめる物語を読んでほしい」といって、ライマン・フランク・ボーム氏が1900年に出版したのが、『オズの魔法使い』です。この本は当

時の、特にアメリカの子どもたちの絶大な人気を博してシリーズとなり、20年のあいだに14巻まで書かれました。ボーム氏のほかにも何人かの作家がオズの国を舞台にした物語を書いているくらいですから、どれほど愛されたかわかるというものです。私が最初にこの物語を知ったのは、ミュージカル映画の名作とされる映画（1939年の作品）からでした。カンザスの農場から竜巻によって家ごと空へ飛ばされた主人公のドロシーが、ふしぎなオズの国に到着したとたん、スクリーンがモノクロからあざやかなカラーになるのが印象的でした。

その後、中学のころに『オズの魔法使い』の本を発見し、夢中になって読みました。そしてこれなら原書でも読めるのでは、と思いついて、ペーパーバックを本屋の洋書売り場で見つけ、順に買っていきながら読むようになりました。佐藤高子氏が訳し、新井苑子氏がさし絵を描いたハヤカワ文庫のシリーズも、次々買い集めました。

ボーム氏のいうとおり、オズのシリーズには教訓を押しつけてくる感じはないのですが、いわゆる常識をゆさぶり、柔軟なものの考えかたへとみちびいてくれるヒントが、いっぱいかくされているように思います。第1巻のオズの国でドロシーが会える脳みそのないかかし、ハートのないブリキの木こり、臆病なライオンは、形として持っていないことを自覚していたからこそ、だれよりも頭をはたらかせたり、やさしかったり、勇気を

したりします。私が好きなのは、その第1巻はもちろんですが、原書の出版順の第2巻『オズの虹の国』（意外な展開!）と第7巻の『オズのつぎはぎ娘』（文句なしに好き!）です。今読むのでしたら、復刊ドットコムの新しい訳もすてきです。第2巻のタイトルは『オズのふしぎな国』、第7巻は『オズのパッチワーク娘』になっています。

第1巻の『オズの魔法使い』は、さまざまな方のさし絵や翻訳で出ています。しかけ絵本作家のロバート・サブダ氏による『オズの魔法使い』（日本語版は大日本絵画）の心躍るしかけには、うっとりすることうけあいです。

何よりもうれしいのは、「夢中になって読める本」が今も増えつづけていること。時間を忘れて物語の世界に没頭できる本に、これからもたくさん出会えますように。

たなか かおるこ

翻訳家。慶応義塾大学理工学部物理学科卒。訳書にダイアナ・ウィン・ジョーンズの代表作のひとつ「大魔法使いウレストマンシー」シリーズ『クリストファーの魔法の旅』『魔女と暮らせば』『魔法の館にとらわれて』『キャットと魔法の卵』、他にもカリナ・ヤン・グレーザー作の『ハンディーカー家は五人きょうだい引越してなんてしたくない!』（いずれも徳間書店）など多数。

トライ
ホークス
の本

アーヤと魔女

作…ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
訳…田中薫子 徳間書店 1,870円



[..... 夢中になって読んだ本]



白雪姫
グリム童話集I
訳…植田敏郎
新潮文庫
品切重版未定



おそばのくきは
なぜあかい
文…石井桃子
絵…初山 滋
岩波書店 990円



オズの魔法使い
著者…
ライマン・フランク・ボーム
訳…佐藤高子
ハヤカワ文庫 726円



オズのパッチワーク娘
著者…
ライマン・フランク・ボーム
訳…田中薫子
復刊ドットコム 2,090円

- ◆ききみみずきん
文…木下順二 絵…初山 滋
岩波書店 880円
- ◆ももいろのきりん
文…中川李枝子 絵…中川宗弥
福音館書店 1,430円
- ◆いたずら小おに
作…ユリア・ブレイセン
訳…内田莉沙子 学研 絶版
- ◆小さなスプーンおばさん
作…アルフ・ブレイセン 訳…大塚勇三
学研プラス 990円
- ◆だれも知らない小さな国
著者…佐藤さとる 講談社 1,650円
- ◆ぼっぺん先生と帰らずの沼
著者…舟崎克彦
岩波少年文庫 品切重版未定

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ 図書室おイイめの2冊が世に出るまで

ス タジオジブリの長編アニメーションの原作『魔法使いハウルと火の悪魔』『アーヤと魔女』。この2冊を含め、徳間書店からは数多くのジョーンズ作品が出版されています。編集を担当されてきた徳間書店の上村令さんに、出版までの経緯や作品の魅力についてお話を伺いました。

Q 1997年に『魔法使いハウルと火の悪魔』が出版されました。その出版の経緯を教えてください。

A 翻訳者の西村醇子さん、野口絵美さん、田中薫子さんの3人から「絶対これを出すべきだ!」と『魔法使いハウルと火の悪魔』の原作をおすすめされました。また同じ時期に、イギリスのロバート・ウェストール(注1)の著作権代理人であるローラ・セシルさんから「ダイアナもすばらしい作家だから検討して」とおすすめされたんです。彼女はダイアナさんの代理人でもあったんですね。彼女にどの作品を検討したらいいか尋ねると「ハウルか、クレストマンシー(注2)ね。」という返事で、日本の翻訳者の方たちからの推薦もあって「ハウル」をまず出すことになりました。

Q ダイアナさんとお会いになったことはありますか?

A はい、何度か。最初にお会いしたのは「千と千尋の神隠し」が公開された直後で、私が映画の感想を興奮しながら伝えると「粗筋だけじゃよくわからないけど、ミヤザキの作ったものならきつとすばらしいわね」とおっしゃっていました。宮崎さんの作品はすでにご覧になっていましたね。

Q 本を出版する過程では、どのようなやり取りがあったのでしょうか?

A 内容でわからないことがあると質問するわけですが、ダイアナさんには物語の世界がはっきり見えているから、何を聞いてもすぐに明快な答えが返ってきました。

Q 挿絵は全て佐竹さんが描かれています。

A 挿絵をどなたにお願いしようかと考えていた時に、ちょうど佐竹美保さんが編集部を持ち込まれた絵を見たんです。雰囲気も物語に合っているし、この人にお願いしよう。ダイアナさんご自身も絵をすごく気に入って、その後はずっと挿絵を担当していただくことになりました。

Q 2012年『アーヤと魔女』が出版されました。挿絵も含めて宮崎監督がとても気に入っている本です。

A 2011年にダイアナさんが亡くなって、この本は遺作だ

ったんですね。これが最後の本ならば、カラーの絵も入れて豪華にしようという話になりました。主人公の名前は原作では「Earwig(ハサミムシ)」(注3)でしたが、これをどう訳すかは翻訳者の田中さんが「『操る』から、アーヤはどうでしょう」と考えてくれました。挿絵は、まずはキャラクターのラフを描いてもらおうんですが、佐竹さんは、原作の名前を主人公の髪型で表現しようとして「ハサミムシってどういう髪型?」と悩まれていましたね。その後、描きたい場面のラフを出してもらって、どのページがカラーで、どのページは白黒と、絵と文章の位置を決めていきました。佐竹さんが絶対描きたいとおっしゃったのが、魔女の作業場です。「ぐちゃぐちゃした汚い絵を描くのがすごく楽しい。汚い部屋を感じ悪くなく描くっていうのが好きなよ。」と。佐竹さんはいつも、文章にあることをそのまま絵にするのではなくて、絵を添えることで物語が少し膨らむということを意識して描かれるんですけど、そういうところをダイアナさんも気に入られたんだと思います。

Q 最後に、上村さんの好きな作品を教えてください。

A ダイアナさんの息子さんが、作品に登場する特徴的なキャラクターを3つ挙げられていました。1つ目がパワフルで、ゴージャスな男性。2つ目は、人を操る冷たい感じの女性。3つ目は、自分の持っている力に気づいていない寄り添えない子どもでした。好きなのは、この3つ目にあたる主人公が登場する『クリストファーの魔法の旅』ですね。最後に希望があるというところはもちろんですが、子どもの抱く孤独や自分の居場所を求める気持ちが、独創的なファンタジーとうまくミックスされていると思います。ダイアナさんは、古典や昔話にも精通されていて、そうした要素を取り入れた「ハウル」なども、彼女にしか書けない新しい魅力ある物語になっていると思います。

*注1……イギリスの作家。宮崎駿監督の好きな作家でもあり『真夜中の電話』『遠い日の呼び声』(徳間書店)は宮崎監督が表紙の絵を描いている。

*注2……「クレストマンシー」シリーズ。徳間書店より刊行。

*注3……Earwigはハサミムシの意。頭の中に入り込み人を操るという意味もある。



魔法使いハウルと火の悪魔

著者…ダイアナ・ウィン・ジョーンズ
訳…西村醇子
絵…佐竹美保
徳間書店 1,760円